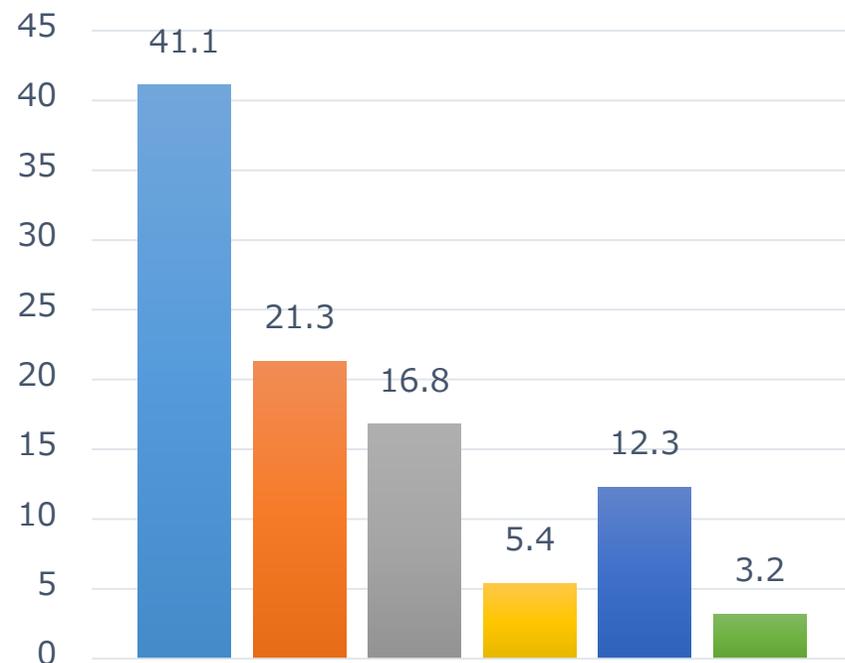


2020年版

中小企業のBCP策定と 今後の設備投資計画

4割以上の企業で「大幅なマイナス影響」である。



前年同月比の業績影響と主なマイナス要因

- 大幅なマイナス影響
- 一部のマイナス影響
- 今後マイナスになる見込
- プラス影響
- 変化なし
- わからない

独立行政法人中小企業基盤整備機構は2020年4月時点での「中小・小規模企業」における新型コロナウイルスの影響を公表しています。

ご覧の通り、業績に「大幅なマイナス影響」が発生していると答えた企業は41.1%と最も多く、次いで「一部のマイナス影響」が発生していると答えた企業は21.3%と、新型コロナウイルスの影響で業績が下がったと答える企業は79.2%に上りました。

営業・販売への支障が大きい

主たる要因	割合 (%)
国内営業・販売に支障	25.7
国内外出・移動制限	17.0
国内物流・生産に支障	13.8
活動自粛	9.2
固定費負担増	7.3
その他	27.0

左の表は「大幅なマイナス影響」が出ていると回答した企業に、その主たる要因をヒアリングした結果です。

「国内営業・販売に支障」が出ていると回答した企業が25.7%と最多になっています。

新型コロナウイルスによって外出が制限されたために業績がマイナス基調にあると考えている企業が多いことが伺えます。

新型コロナウイルス収束傾向にあるとされていますが、海外の症例を見ると、今後国内でも第2波が来る可能性も否めず、非常時に向けた対策が求められます。

コロナによる「設備投資マインド」の低下

法人企業景気調査（2020年4月～6月期）

■ 生産・販売用設備の設備判断BSI

	2020年3月末 結果	2020年6月末 結果	2020年9月末 見通し	2020年12月末 見通し
大企業	+ 0. 9%	▲ 7. 1%	▲ 3. 3%	▲ 0. 9%
中堅企業	+ 5. 1%	▲ 3. 8%	▲ 1. 9%	+ 0. 8%
中小企業	+ 4. 4%	▲ 0. 1%	▲ 1. 2%	+ 1. 0%

▲（マイナス）は現状の生産用設備・販売用設備が生産量に対して「過大」と感じている。

中堅・中小企業は、2020年末でプラスに転じ、つまり、「不足」となる見通し。

■ 令和2年度の設備投資金額（IT投資を含む、土地は除く）

	全産業	うち製造業	うち非製造業
設備投資	▲ 4. 4%	▲ 1. 9%	▲ 5. 8%

設備投資金額は全産業ではマイナスとなっているが、細かく分類すれば、化学系や情報・通信機器製造業がプラスに転じている。

■ 企業規模ごとの設備投資へのスタンス（上位3位）

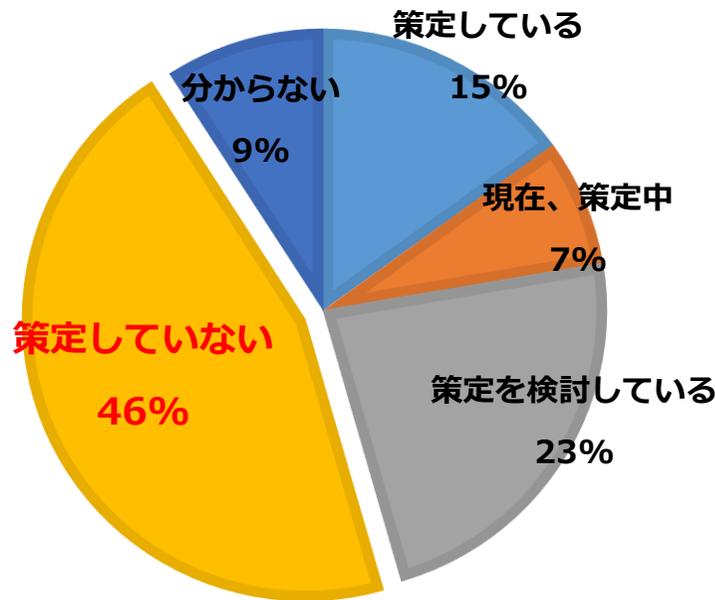
	1位	2位	3位
大企業	維持更新投資	省力化・合理化	生産・販売能力拡大
中堅企業	維持更新投資	省力化・合理化	製品・サービス向上
中小企業	維持更新投資	生産・販売能力拡大	製品・サービス向上

一方マイナス幅が大きい業種が「自動車系」・「業務用機械系」・「小売系」・「運輸系」の業種になっている。

50%近くの中小企業者が「策定していない」

BCP策定状況（2019年5月）

- 策定している
- 現在、策定中
- 策定を検討している
- 策定していない
- 分からない



左記は企業のBCPの策定状況を示したものです（出典：帝国データバンク「事業継続計画（BCP）に対する企業の意識調査（2019年）」）。

ご覧の通り、2019年5月時点では、「策定している」と回答した企業は15%、「現在、策定中」が7.3%、「策定を検討している」が23.2%と、少しずつですが意識が高まっている様に伺えます。

しかしながら、未だ**半数以上の企業様では「策定完了」しておらず**、災害対策時の対応方法を形式化できていないことが分かります。

太陽光発電なら 大目商店にお任せください！

広島県・岡山県を中心に太陽光発電のご提案を
させていただきます。

丁寧かつ迅速なご対応を心がけております。是非お問い合わせ下さい！

「地域に愛されるサービスを通じて安心・安全・快適な暮らしを支える総合エネルギー企業」



084-951-2333

受付時間：9:00～18:00（土日祝休み）